

## マレーシアのハラール認証を コントロールする JAKIM とは?

これからマレーシアに進出する日系流通業・小売業・飲食業にとってハラール認証の取得は、今後の当地でのビジネスを大きく左右する可能性があります。では、ハラール認証を行うマレーシアの JAKIM とは、どのような機関なのでしょうか?



Mr. Bukhari bin Md Akhir, Director,  
Halal Management Division, JAKIM

Department of Islamic Development Malaysia (JAKIM), Level 7, Block D, Putrajaya Islamic Complex (KIP), No. 3, Jalan Tunku Abdul Rahman, Precinct 3, 62100, Putrajaya ☎03-8892 5000  
□ <http://www.wasap.my/+60388925000/BPHJAKIM>



JAKIMとは、マレーシア・イスラム開発庁（マレー語：Jabatan Kemajuan Islam Malaysia）の略であり、マレーシアにおけるイスラムの発展と進歩を推進するために運営されている連邦政府機関です。当庁は、政策立案やイスラムの信仰と教えの純粋性を維持することを目的とし、イスラム教徒が抱える諸問題を解決するため、法律や規制の策定や調和、また既存の法律や行政の実施状況の評価も実施しています。その他、各種情報の収集、分析、発信を積極的に行っています。海外資本の飲食業者や流通業者がマレーシアでハラール認証を取得するための手続きについては、2020年度に改訂された「Makaysia Halal Management System 2020」(MHMS) の「Manual Prosedur Pensijilan Halal Malaysia (Domestik) 2020」にある一般要件と各種枠組みに沿った特定要件を満たしている必要があります。同時に、ハラール食品に関するマレーシア規格 (MS 1500:2009) を満たす必要もあります。全ての情報と書類は [www.halal.gov.my](http://www.halal.gov.my) から入手できます。申請手順については、まずオンライン上の MYHALAL (<http://apps.halal.gov.my/myehalal/pemohon/index.php>) で必要事項を記入し、申請書を提出します。次に実際の窓口機関へ出向いて頂き、各種書類や補足書類を提出する流れとなります。提出先については、事業

を行う場所や業態により異なりますので、ご注意ください。これまでも海外からの流通・小売・飲食業に関する分野への投資が、数多く行われてきました。しかしながら、多くの事業者間で、書類の不備、従業員のトレーニング不足、間違った申請手順が散見されています。また、手続きを理解しないまま、コンサル会社に丸投げし、多額の費用を支払ったものの承認されないという事業者のケースもあるようです。ちなみにマレー系やイスラム系が経営しているレストランや販売商品が、自動的にハラール認証を取得できるわけではありません。つまり、ハラールは人種や経営者に依存することは決してないのです。ハラール認証を受けるということは、当庁がその手順やプロセスをチェックし、ハラールであることを明確に保証しているということです。

マレーシアのハラールは、あくまで事業者の任意です。ハラール認証を取得していないレストランや商品であっても、それらを禁止したり、利用をやめるような呼びかけは絶対に行いません。ただし、当庁からハラール認証を受けていないレストランや商品に関しては、100%ハラールではないとは言えませんが、「ハラール認証を受けていない」という表現となります。当庁が知る限り、マレーシア以外のハラール認証機関は全世界に84カ所（46カ国）に及びます。詳細については知りたい方は、ウェブサイト ([www.halal.gov.my](http://www.halal.gov.my)) より、「Recognized Foreign Halal Certification Body List」で他国のハラール認証ロゴを確認することができます。残念ながら、世の中には偽物と思われるハラール認証ロゴが横行しています。先のウェブサイトを確認する以外の方法として、当庁が勧めている2つのアプリ（「SmartHalalApps」と「Verify Halal」）を使い、その特定の製品がハラールであるかどうかを調べることができます。今後事業者がハラール認証を申請する際には、前述の2つのガイドラインを閲覧し、ご理解を頂きたく存じます。また、申請に際して、問題や質問等が発生した場合には、公認のハラール承認取得のための研修機関をご案内させて頂きま

## 日系企業のハラールビジネス拡大を牽引するジェトロ・クアラルンプール

ジェトロは、日本とマレーシア間の貿易や投資に関する支援を行っており、多くの日本製品をマレーシア国内へ紹介していますが、近年ではハラール食品のマレーシア展開を希望する日系企業も多くなりました。

実際、日本からマレーシアへの食品分野の輸出額は、富裕層の健康志向の高まりや、中間層の所得向上を機に年々拡大しています。これまでの主な購買層は華人系の富裕層といわれていましたが、マレーシアの人口約3200万人のうち、イスラム教徒が約7割を占めていることから、この市場をターゲットに日本からのハラール商品の輸出拡大を目指しています。更に、当地マレーシアで製造したハラール商品の中東・インドネシア・シンガポール等への輸出も含めた販路拡大に向けた支援をしています。

具体的には見本市への出展、商談会の開催、セミナーの実施などの活動を行なっています。世界最大級のハラール見本市として知られるMIHAS (Malaysia International Halal Showcase) に、2019年にジャパンパビリオンを設置し、2022年は、ハラール認証取得

済の日本産食品24商品（8社）のサンプルを展示、世界各国のバイヤーから注目が集まりました。

ここ数年のコロナ禍を経て、当地バイヤーも「安全性」や「機能性」を重視する姿勢が見られ、日本産のハラール商品との親和性も高まっていると感じられます。そこで商材紹介だけに留まらず、日本製品のムスリム市場のニーズ拡大を見据え、日本のハラール認証取得および「ムスリムフレンドリー」商品約110品目強のサンプルを集め、常設展示スペースを設けることとなりました。この取り組みは、コロナ禍の渡航制限などの難しさを抱えるメーカー企業に成り代わり、商品のサンプル提供や説明をバイヤーニーズに応じて即時行えるショールームを創設することで、日系企業の販路拡大の機会を作るのが目的です。

ご承知の通り、マレーシアをはじめ、イスラム諸国は現在急速な経済成長を遂げています。近年のムスリム中間層の購買力の急伸を考慮し、日系企業が未開拓であった当市場の規模拡大を見逃す手はないかと思

います。韓国・台湾企業も既にこの市場に注目していて、活発な動きを見せています。今後も成長が期待できる市場であるため、所得向上傾向の強いムスリム中間層をターゲットに、日本企業にも益々活躍していただきたく、ジェトロとしても日系企業のハラールビジネス拡大の一助になるよう努力してまいります。



昨年のMIHASでのジェトロブースの様子

**JETRO**  
Kuala Lumpur

JETRO Kuala Lumpur  
9th Floor, Chulan Tower, No.3  
Jalan Conlay, 50450 KL  
□ [www.jetro.go.jp/jetro/overseas/my\\_kualalumpur/](http://www.jetro.go.jp/jetro/overseas/my_kualalumpur/)